

ファニチャーラック

OT-R504

インターネットによる登録のお願い

<http://www3.pioneer.co.jp/>

お買い上げの製品について、上記URL「お客様のページ」でお客様登録をお願いします。

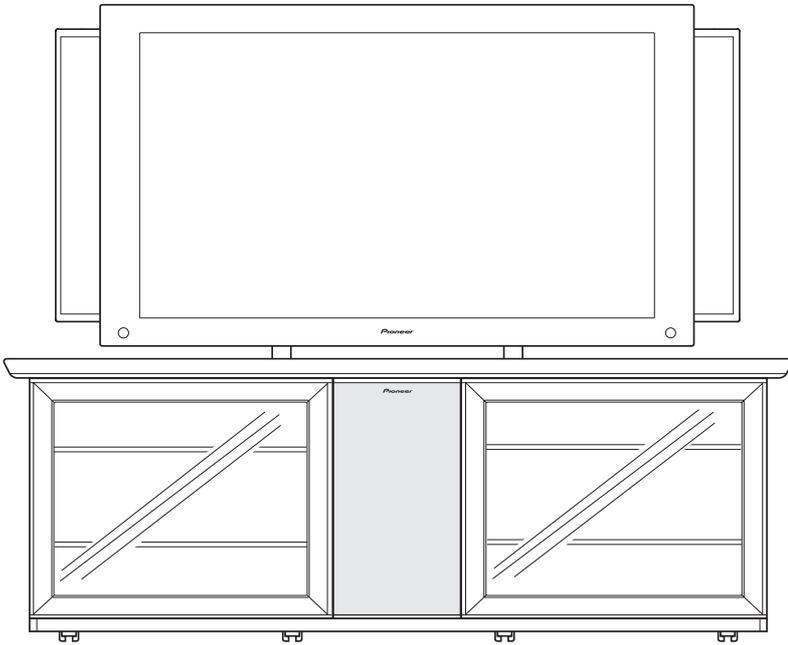
この「お客様のページ」は、お客様とのコミュニケーションを目的としたウェブサイトです。新規登録されたお客様にはID・パスワードを発行させていただきます。新製品のカタログや取扱説明書のダウンロード、メールマガジンの購読など各種サービスをご利用いただけます。

取扱説明書

このたびはパイオニア製品をお買い求めいただきありがとうございました。

本製品はパイオニアのプラズマディスプレイを設置すると同時に、AVアンプ、DVDプレーヤー、サブウーファール等をコンパクトに設置するための高級家具調ラックです。

※ディスプレイは別売品です



- お使いになる前に、正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- 本製品の機能を十分に発揮させてお使いいただくために、この取扱説明書を最後までお読みください。
- お読みになった後は、大切に保管してください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

図記号について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな図記号を使用しています。その記号と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。

図記号の意味



⚠ 記号は注意（警告を含む）しなければならない内容です。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘ 記号は、やってはいけない（禁止）内容です。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

⚠ 注意

設置

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止

本機の上にものを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。持ち運びは重いので二人以上で行ってください。



禁止

直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かないでください。火災の原因となることがあります。



禁止

使用方法

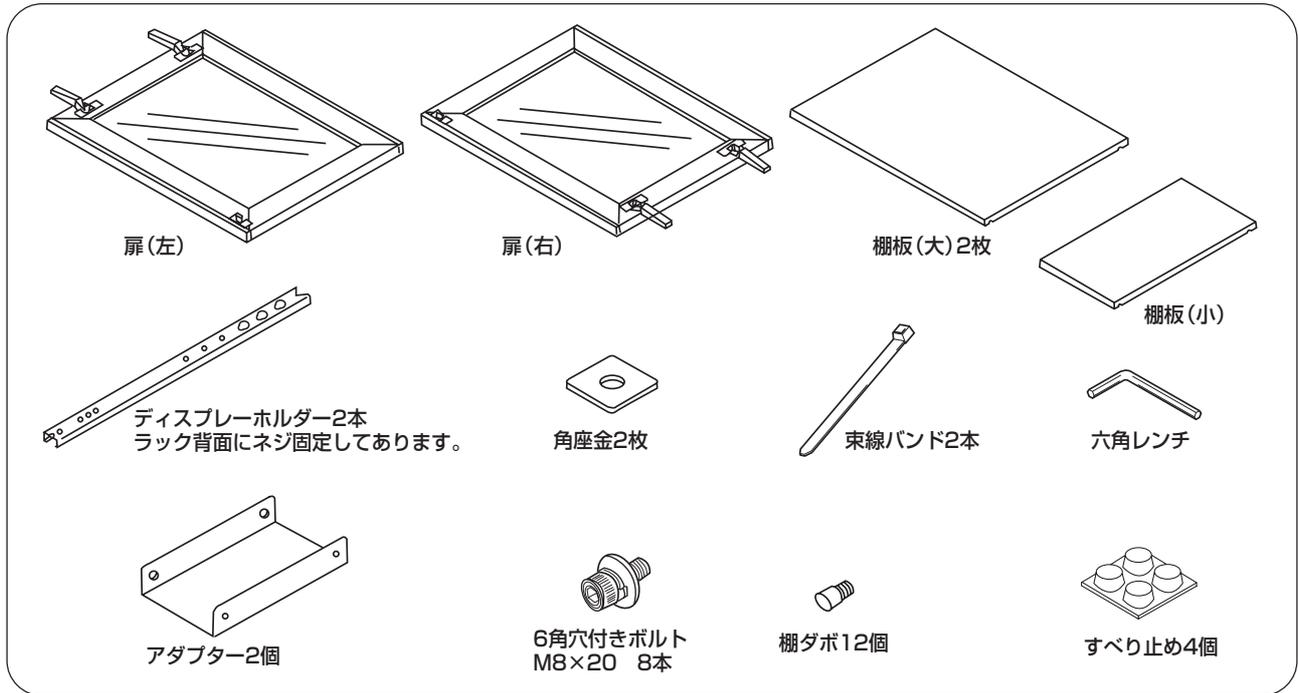
本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



禁止

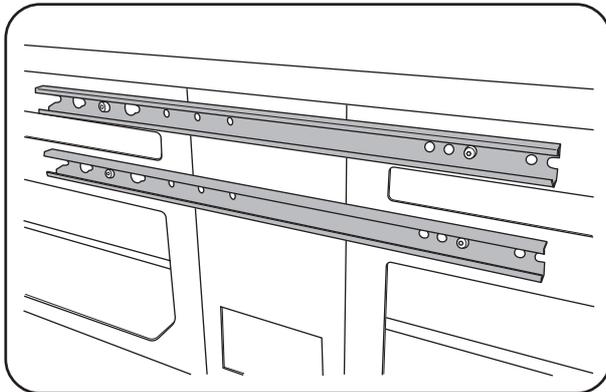
付属品の確認

付属品を確認してください。

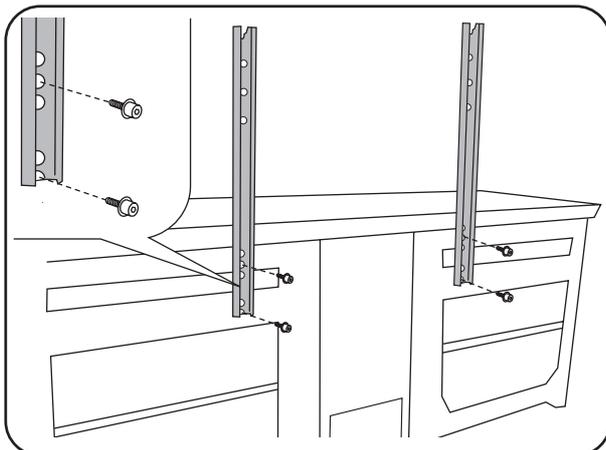


付属品の取付と各機器の設置

1 ディスプレイホルダーの取付



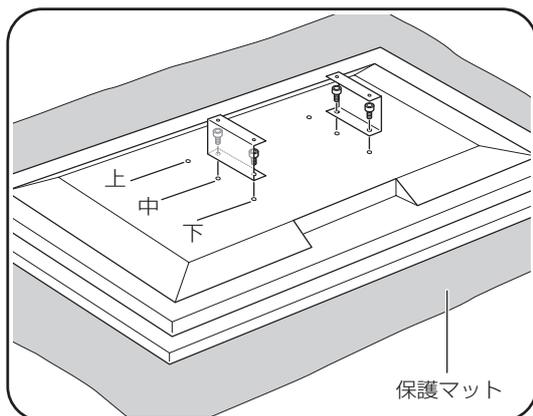
1-1 付属の六角レンチでラック背面のディスプレイホルダーを取り外す。



1-2 ディスプレイホルダーを左図の様にやや緩めに取り付ける。

- 取付位置は必ず左図の位置を守ってください。
- ディスプレイホルダーはアダプター(またはプラズマディスプレイ)の取付穴と合わせやすいように、いったん緩めに取り付けてください。プラズマディスプレイを取り付けた後、再度しっかりと締め直してください。

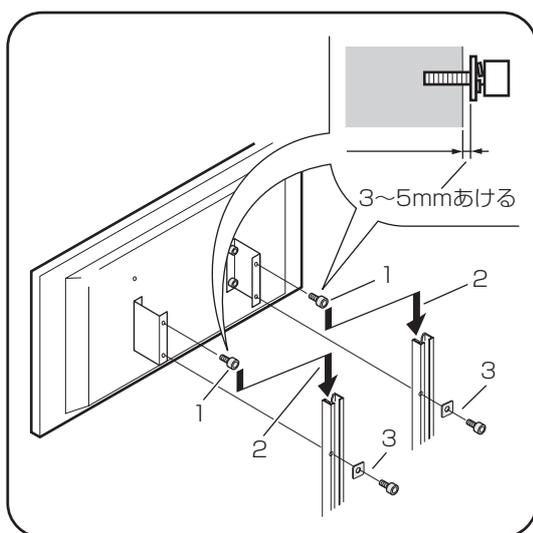
2 アダプターの取付



2-1 付属の六角穴付ボルト(M8 × 20)各2本でアダプターをプラズマディスプレイ背面の左図位置にしっかりと固定する。

- アダプターの向きは左図のようにしてください。
- アダプターの孔はねじ孔ではなく大きい貫通孔の方を使用してください。
- プラズマディスプレイの取付穴は上・中・下のうち、中と下の2カ所を使用してください。
- PDP-434HDまたはPDP-504HDでスピーカーを横に取り付けてご使用の場合は、アダプター無しでも取付可能です。ただし、ラックを壁から離して使用する場合は、後方への転倒防止のためにアダプターを必ず使用してください。
- アダプターの取付は必ず図のように梱包用の保護マットを敷いて、プラズマディスプレイを寝かせた状態で行ってください。

3 プラズマディスプレイの取付



3-1 アダプターの上側ねじ孔に付属の六角穴付ボルト(M8 × 20)2本を仮止めする。

- ボルトは必ず10 mm以上締めてください。

3-2 仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダーのお好みの位置に引っ掛ける。

- 取付可能な位置はプラズマディスプレイによって異なります。ディスプレイ取付高さの範囲の項を参照してください。

3-3 残りの2カ所を六角穴付ボルトでしっかりと締め付ける。

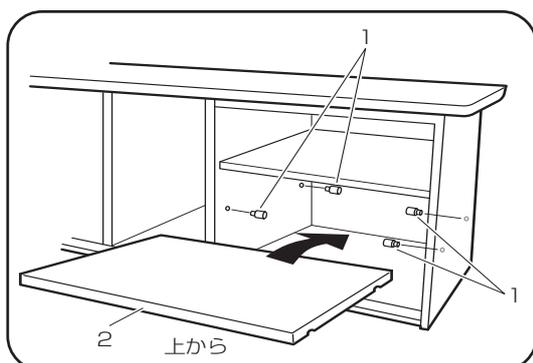
- ディスプレイホルダーを最上段で使用する場合は、抜け落ち防止のために、必ずこの部分に角座金を併用してください。

3-4 手順**3-1**で仮止めしたボルトも、しっかりと締め付ける。

3-5 手順**1-2**でディスプレイホルダーを仮止めしたボルトも、しっかりと締め付ける。

4 棚板の取付け

予め各機器の設置位置を決めた上で、お好みの位置に棚ダボを取り付け、棚板をセットします。設置位置は**5. 各機器の設置**の項を参考にしてください。



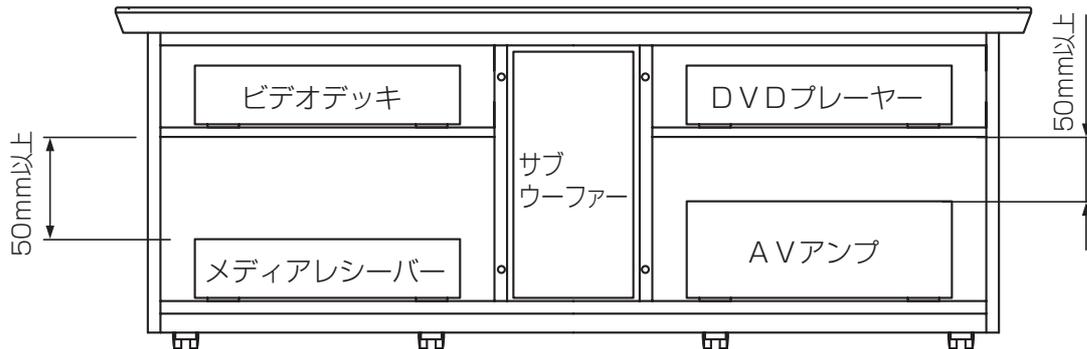
4-1 棚ダボを4カ所取り付ける。

4-2 棚板下面の座グリ部を棚ダボに合わせ、セットする。

- 棚板(大)の取付位置は1段で棚板(小)は3段です。

5 各機器の設置

メディアレシーバー、AVアンプ、DVDプレーヤーなどの配置は下図を参考にしてください。

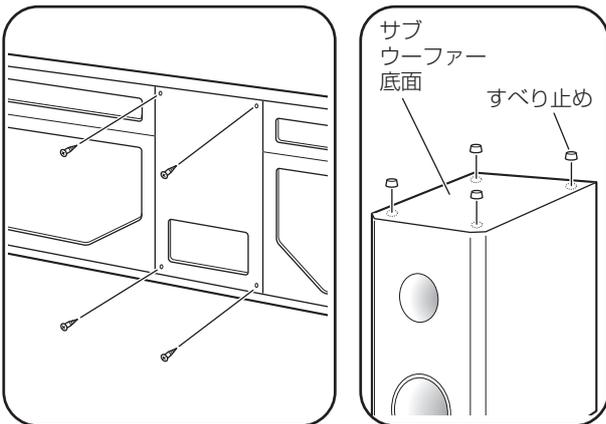


注意

- 各機器は左右の放熱線をふさぐことのないように、間口の中央に設置してください。また、メディアレシーバーやAVアンプなどの発熱量の多い機器の上部は50mm以上空けて設置してください。
- ビデオデッキによってはラックの上段に設置するとビデオ再生時にプラズマディスプレイの画面にノイズが入る場合があります。その場合はビデオデッキを下段に設置してください。
- AVアンプなどで10kgを超えるような重い機器は、底板上に設置してください。
- 奥行きが400mmを超える機器を収納する場合は、お手持ちのプラスドライバーで左右どちらかの背板を外して設置してください。その際、機器の脚が底板より脱落する場合は適当なスペーサーを挟むなどして、機器の下部に有る通気孔をふさがないようにしてから使用してください。
- 背板を左右両方外しての使用はしないでください。破損の原因となります。

6 サブウーファースの設置

中央のサブウーファー収納部にサブウーファーを設置できます。



6-1 グリルを取り外す。

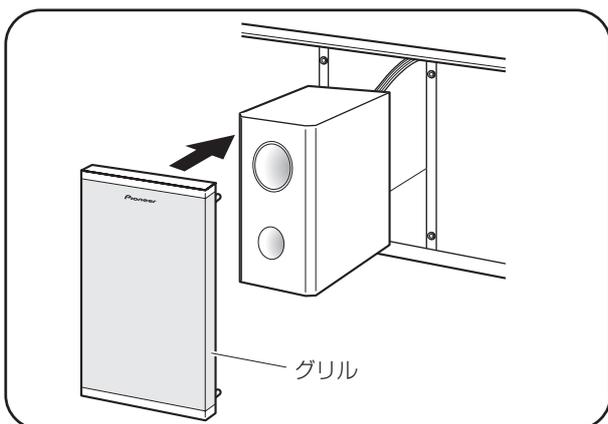
6-2 お手持ちのプラスドライバーで中央の背板を取り外す。

6-3 サブウーファー底面の4隅に付属のすべり止めを付ける(4カ所)。

6-4 サブウーファーを入れる。

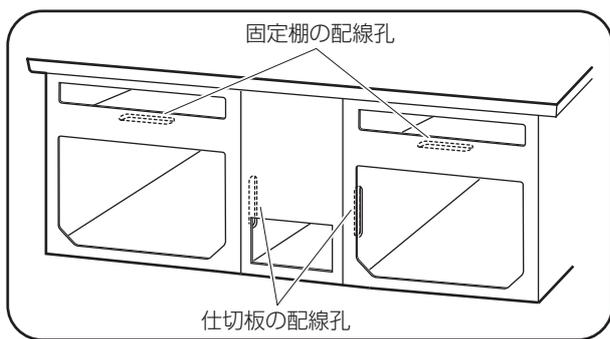
6-5 グリルを元の位置に取り付ける。

- サブウーファーの使用時は中央の背板を必ず外して使用してください。背板のビリ付き音の発生やサブウーファーの過熱の原因となります。
- サブウーファーを使用しない場合は棚板(小)をお好みの位置にセットして、小物類の収納スペースとして使用してください。



7 各機器の接続

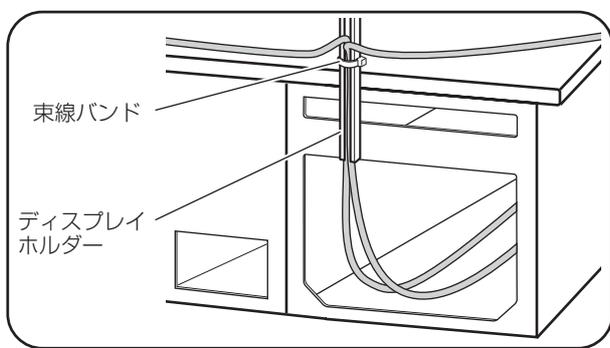
各機器を接続します。それぞれの機器の取扱説明書を参照してください。



7-1 固定棚や仕切板の配線用長孔を使用すると、各配線をラック内で処理することができます。

8 電源コード等の束線

プラズマディスプレイの電源コードやその他のケーブルをディスプレイホルダーに束線します。

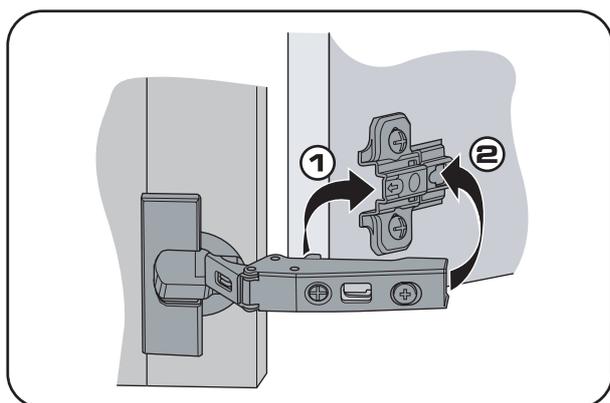


8-1 電源コードやその他のケーブルをディスプレイホルダー内に収納する。

8-2 付属の束線バンドでディスプレイホルダーを巻き付けるように固定する。

9 扉の取付

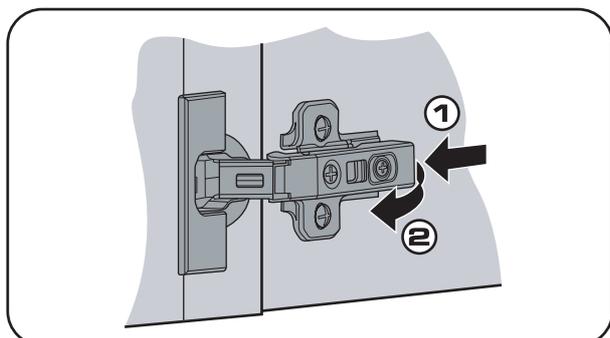
扉の左右を確認し、ワンタッチで取り付けます。あらかじめ、梱包用の発泡スチロールをラック本体の下に敷いて、本体が容易に動かないようにしてから作業を行ってください。



9-1 プッシュラッチ受の位置を確認して、扉の左右を確認する。

9-2 先に下側、次に上側の順でヒンジを座金部前方に滑り込ませる。

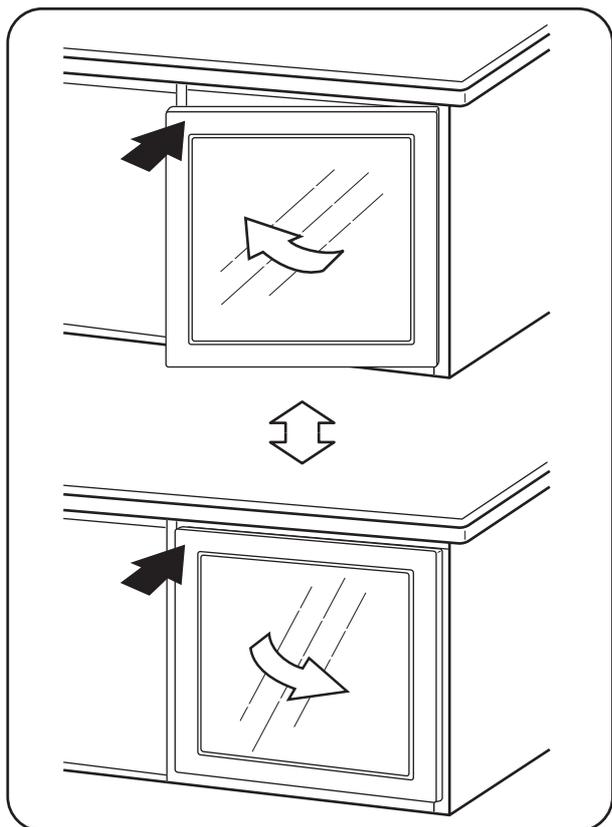
9-3 ヒンジアームの後部を「カチッ」と音がするまで指で押す。



取り外し方

●ヒンジアーム後部を押しながらヒンジを軽く引き上げる。

10 扉の開閉



閉め方

- 扉の開閉側上部をカチッと音がするまで押します。扉はロックされ簡単に開かなくなります。
- 閉めた状態で扉を無理に開けないでください。ラッチ破損の恐れがあります。

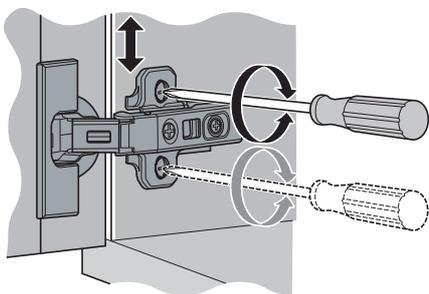
開け方

- 扉の開閉側上部をカチッと音がするまで押します。ロックは解除され、扉は自動的に開きます。

11 扉の調整

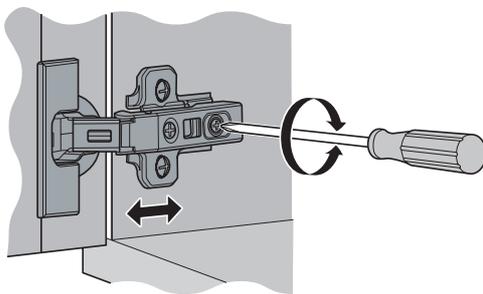
このラックに使用しているヒンジは、上下、左右、前後の各方向に調整ができます。設置場所によっては、調整が必要になる場合があります。その場合は下図を参照して調整してください。調整は、必ず手回しのプラスドライバーで行なってください。電動ドライバーなどを使用すると、ねじ山破損などの原因となります。使用しないでください。

! 調整は、必ず手回しのプラスドライバーで行ってください。電動ドライバーなどを使用すると、ねじ山破損などの原因になります。使用しないでください。



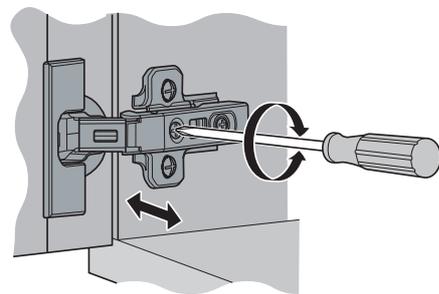
上下調整

- 座金の2本の固定ねじを緩めて、ヒンジを上下させる。
- 調整後、固定ねじを締め戻す。



前後調整

- 固定ねじを緩めて、ヒンジを前後させる。
- 調整後、固定ねじを締め戻す。



左右調整

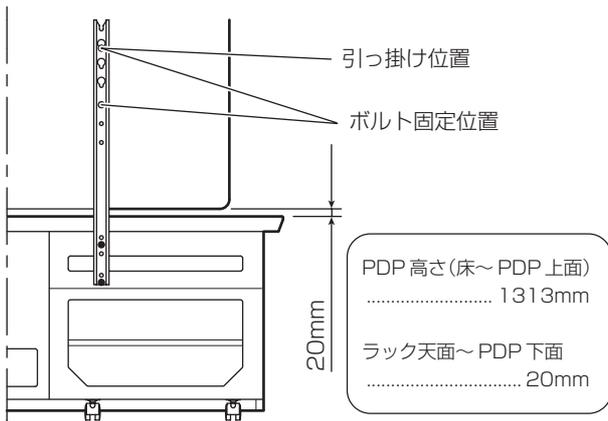
- 調整ねじを時計方向に回すと、扉が内側に動きます。
- 調整ねじを反時計方向に回すと、扉が外側に動きます。
- 上下ヒンジの調整量を変えると、扉の傾きが調整できます。

ディスプレイ取付高さの範囲

ディスプレイの取付位置はご使用になるプラズマディスプレイによって異なります。プラズマディスプレイの品番を確認してから、下記に従って取り付けてください。プラズマディスプレイの高さは50mmごとに調整可能です。ただし、PDP-504HDでスピーカーを下に取り付けた場合は下限＝上限となり高さは調整できません。

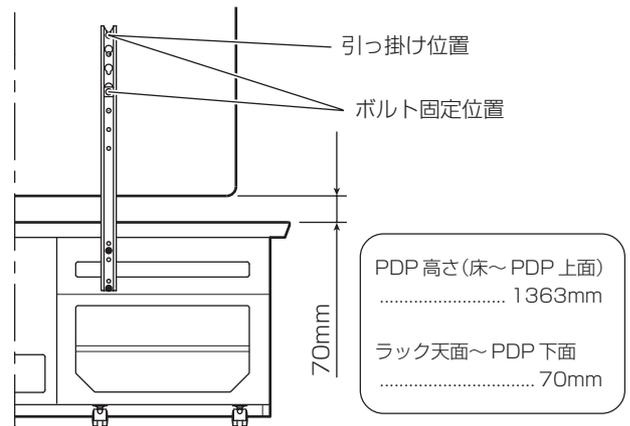
○ PDP-434BX, PDP-434TXをご使用の場合

高さの下限



アダプターの上のねじ孔に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダーの**1番上のだるま孔**に引っ掛けてから固定してください。

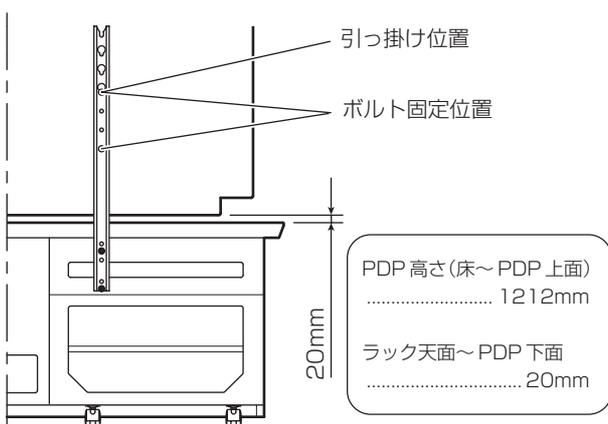
高さの上限



アダプターの上のねじ孔に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダー**最上部のV字型切り欠き**に引っ掛けてから固定してください。

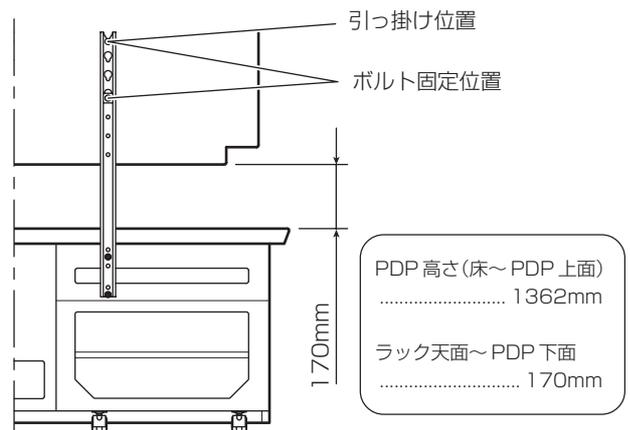
○ PDP-434HDでスピーカーを横に取り付けてご使用の場合

高さの下限



アダプターの上のねじ孔 (または、プラズマディスプレイ中央のネジ孔) に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダーの**3番目のだるま孔**に引っ掛けてから固定してください。

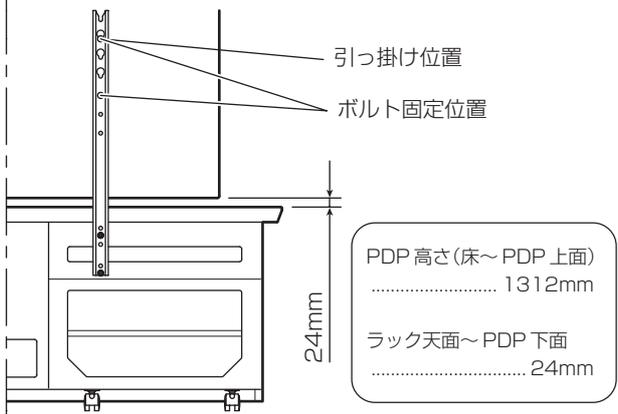
高さの上限



アダプターの上のねじ孔 (または、プラズマディスプレイ中央のネジ孔) に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダー**最上部のV字型切り欠き**に引っ掛けてから固定してください。

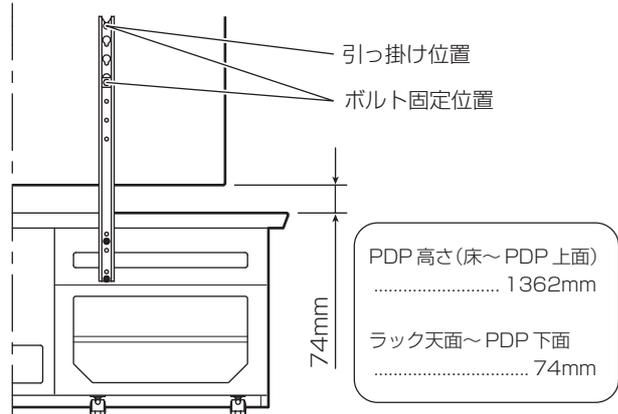
PDP-434HDでスピーカーを下に取り付けてご使用の場合

高さの下限



アダプターの上のねじ孔に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダーの**1番上のだるま孔**に引っ掛けてから固定してください。

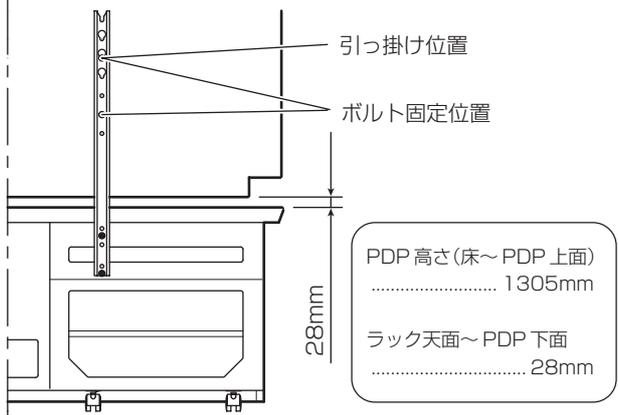
高さの上限



アダプターの上のねじ孔に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダー**最上部のV字型切り欠き**に引っ掛けてから固定してください。

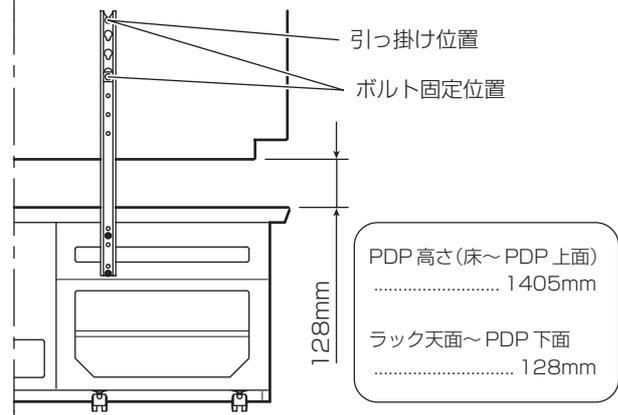
PDP-504HDでスピーカーを横に取り付けてご使用の場合

高さの下限



アダプターの上のねじ孔(または、プラズマディスプレイ中央のネジ孔)に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダーの**2番目のだるま孔**に引っ掛けてから固定してください。

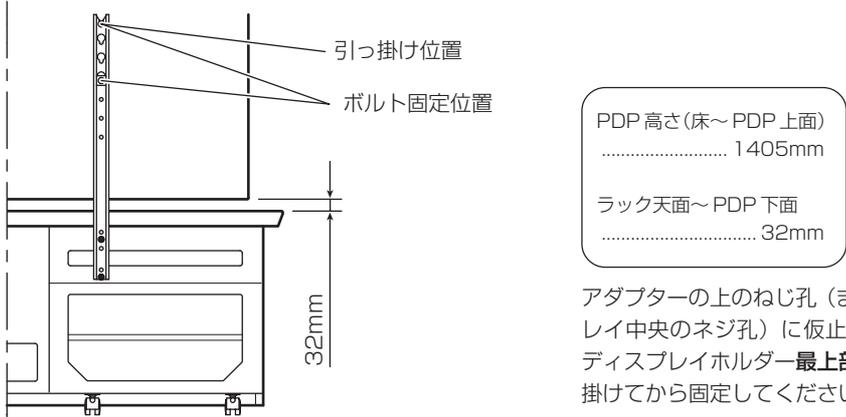
高さの上限



アダプターの上のねじ孔(または、プラズマディスプレイ中央のネジ孔)に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダー**最上部のV字型切り欠き**に引っ掛けてから固定してください。

PDP-504HDでスピーカーを下に取り付けてご使用の場合

高さの下限



アダプターの上のねじ孔(または、プラズマディスプレイ中央のネジ孔)に仮止めした六角穴付ボルトをディスプレイホルダー**最上部のV字型切り欠き**に引っ掛けてから固定してください。

積載制限

- ・積載総質量 140kg 以下
- ・天板の上 60kg 以下
- ・底板の上 30kg 以下 / 1カ所
- ・棚板の上 10kg 以下 / 1カ所
- ・積上げ高さ
(天板の上から) 90cm 以下



左記制限を超えて積載しますと、破損や転倒等の危険があります。

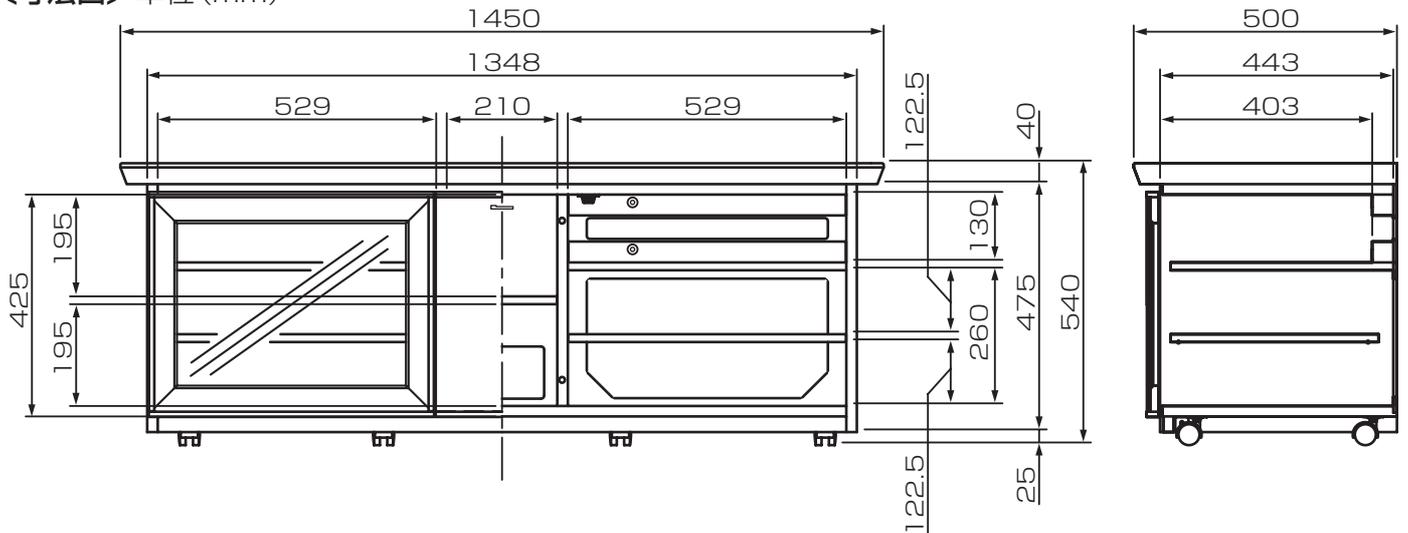
必ず制限内で使用してください。

仕様および寸法図

〔仕様〕

- ・天然木突板貼りウレタン塗装仕上
- ・可変棚 (大) : 2枚, (小) : 1枚付
- ・寸法 : 1450 (幅) × 540 (高さ) × 500 (奥行) mm
- ・質量 : 45kg

〔寸法図〕 単位 (mm)



お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

- 家庭用オーディオ/ビジュアル製品のお問い合わせ窓口
- カタログのご請求窓口

0070-800-8181-22

0070-800-8181-33

<ご注意> ●PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>